

第三十六回自由民主党大会における総裁挨拶

(昭和五十四年一月二十四日 日比谷公会堂)

わが党所属の国会議員、全国から参集された党員・党友の各位、各界を代表されるご来賓の皆さまの出席を得て、昭和五十四年定期大会が催されるにあたり、一言所信を申し上げます。

私は、昨年十二月一日、第三十五回臨時党大会において総裁に選任され、続いて十二月七日、内閣の首班として政権を担う立場になりました。無上の光栄であり、責任の重さを思い、身のひき締まる緊張を覚えております。私は、各位のご叱正とご協力を得て、私に課せられた重い責任を果たしてまいることを、ひたすら念願しております。

戦後、既に三十四年を経過しましたが、その間、わが日本国民は、その勤勉と英知によって、今日、われわれが享受する平和と安全、自由と繁栄をかちとることができました。その見事な成果は、内外ともに高く評価されております。

その間、わが国民の間には、民主社会における基本的秩序についての合意が形成され、それが生活の中に定着しつつあります。それは、政治的には、複数政党による議会制民主主義であり、経済運営の面では、効率の高い自由市場経済であり、国の平和と安全については、平和主義に基づく総合安全保障政策などで

あります。このことは、わが党の党是とするところで着実にわが国の政治に根づいてきたことを示すものであります。

わが党は、この国民的合意を尊重するとともに、この枠組を踏まえて、内外にわたる各般の施策を展開し、わが国の平和と安全、自由と繁栄をいよいよ確実なものにするよう全力をあげなければならぬと考えております。この任務を果たすためには、われわれは、まず自らの姿勢を正し、率先して自己改革に徹しなければなりません。綱紀を肅正し、モラルを高めるとともに、有効な政策的対応力を強めなければなりません。

わが党が、広く国民の前に開かれた近代政党内に脱皮すべく、抜本的な党改革に着手してから満二年になります。わが党の議員党的な閉鎖性を打破し、政治と国民との間の不信と乖離を埋め、政治を血と心のかよい合ったものにするため、全党あげてその改革に努力してまいりました。こうしたわが党の姿勢は、多くのひとびとの共感を集め、その進展とともに、わが党に対する支持は、逐次、回復基調を辿ることができました。一昨年の参議院選挙以来の各種選挙の成果や数々の世論調査の結果は、そのことを示しております。

百五十万党员・党友の獲得、全国を網羅する支部組織の確立なども、全て、当初私達が期待した以上の成果であります。そこには、関係の皆さまのなみなみなならぬご苦労が存したことは、想像に難くありません。ここに心から御礼を申し上げる次第であります。

しかしながら、党の改革は、一朝一夕でできるものでもなければ、これでよいというようなものでもあ

りません。時代は、刻々と変化し、前進しております。一時の小成に安んじて改革の努力を怠るとき、直ちに退歩が始まり、国民の期待も支持も離れ去るものであります。

党改革こそは、われわれの不断の嘗みであり、永遠の課題でなければなりません。

今年、われわれに最も身近かな統一地方選挙の年であります。

この春には、東京都知事選挙、大阪府知事選挙をはじめ各県知事選挙、各市長選挙、道・府・県議選挙、区議、市・町・村議選挙が全国いっせに行われます。住民に最も密着した地方選挙こそは、地方公共団体と住民、中央と地方を結びつける血管網をつくりあげる選挙であります。

われわれは、党の総力をあげて、この選挙を勝ち抜き、政局の安定と政策推進の基礎をきざすことではありせんか。

わが党の益々の躍進と皆さんの一層のご健勝とご健闘を祈ってご挨拶にかえます。